

# 過ちを繰り返すことのない平和な世界に 次代を担う子どもたちに語り継ぎ、親子でともに学が 広島平和親子派遣団を実施

4月28日～30日、連合群馬広島親子派遣団を実施し、4産別から5家族13名、事務局2名の全体で15名が参加しました。

初日と2日目の午前は、親子で相談した計画を基に2グループに分かれ、世界遺産に登録されている宮島と呉の大和ミュージアムを見学する自由学習を行いました。

2日目の午後からは、平和記念資料館を見学し、広島に原子爆弾が投下された理由、原爆被害の実態、核兵器の現状などについて学習しました。

語り部学習では、被爆体験者の寺本貴司さんから「小学校5年生の時、爆心地から1km離れた自宅で疎開先の友人に手紙を書くため、机に向かっていた時に被爆し気を失った。奇跡的に助かり、偶然通りかかった近所のおばさんにおぶってもらい逃げるこ



被爆体験者の寺本貴司さんを囲んで（前列中央）

とができた」との貴重な体験談を聞きました。

3日目は、原子爆弾の投下によって、壊滅的な被害を受けた広島市の惨状が伝えられた、広島城の城壁に残る「大本営の通信指令基地後跡」、原子爆弾の爆風で倒壊し復元された「広島城」、爆心地に位置する「島病院」などを見学しました。

平和記念公園では、ピースウォークを行い、ボランティアガイドから慰霊碑や祈念碑、原爆ドームなどについて説明を受け、組合員や県民が平和を祈って作成した、折鶴7千羽を原爆の子の像に献納し、平和の尊さを学びました。



平和の鐘の音を世界に響かせよう



原爆で亡くなった子どもたちへ  
平和の祈りを捧げる

## 2012連合群馬平和行動広島親子派遣団に参加して 自治労／邑楽町職労 橋本 恵子

今回、中2の娘と小2の息子の3人で参加しました。広島到着の28日は厳島神社へ、次の日の午前中は呉の大和ミュージアムへと、親子で自由学習を楽しんだ後、いよいよ本番の平和学習です。



資料館では、じっくり見ていたせいか時間が足りず、最後の方は駆け足になってしまい、被爆した方の証言ビデオなどを横目にみながら集合場所へと急いだのは少し心残りでした。貞子さんの折った折り鶴が思いのほか小さかったこと、熱線により表面が溶け、人が腰かけていた部分だけが黒い影のように残った石段…などが印象的でした。見学の後、語り部の方から、直接被爆の体験を聞きました。

小学5年で被爆し、お母さんとお姉さんを亡くしたとのことですが、その淡々とした語り口から、67年経っているにもかかわらず、かえってその方の痛みを感じたような気がしました。また、貞子さんは病気が治ることを願って折り鶴を千羽以上折ったけれど、紙がないため葉の包紙などを利用したとの話から、鶴の小ささが理解できました。

次の日はあいにくの雨…その雨の中でしたが、爆心地まで行きました。現在も開業しているその病院の真上で原爆がさく裂したのか…とまっているところへ派遣団のメンバーの「600メートル上空ってスカイツリーよりも低いんだ」という声が聞こえました。地上からたった600メートルを実感した言葉でした。

その後、ボランティアの方の案内で、平和記念公園内を回りました。

あの日、水を求めて亡くなった多くの人たちを追悼するために、噴水や池といったものを用いていること、平和の鐘には国境のない世界地図が彫られていること、被爆し枯れ木同然だったアオギリが翌年になって芽吹き、人々に勇気を与えたこと、そのアオギリが現在も毎年種子をつけ、その種子が国内のみならず海外にまで贈られていること、などの説明を受け、悲惨さを語り継ぐだけでなく、平和な世界への思いも感じました。

最後に、このようなことが2度とおこらないようお願いを込め、折り鶴を献納しました。下の子にはまだ難しかったかもしれませんが、平和のありがたさ、大切さが記憶のどこかに残ってくれていると思います。